

# 平成22年度埴町管理橋梁点検結果

## 1. 点検実施橋梁

平成22年度に実施した橋梁点検（全39橋）の、橋種別等の集計を図-1に示す。

- 橋長は5m未満の橋梁が1割弱、5～14.5mが9割強となっている。
- 橋種は鋼橋が3割弱、PC橋が3割、RC橋が3割弱、Box.C橋が1割、複合橋が1割弱となっている。
- 架設後経過年数は10～19年が1割強、20～29年が2割強、30～39年が3割弱、40～49年が1割強、架設不明が3割弱となっている。

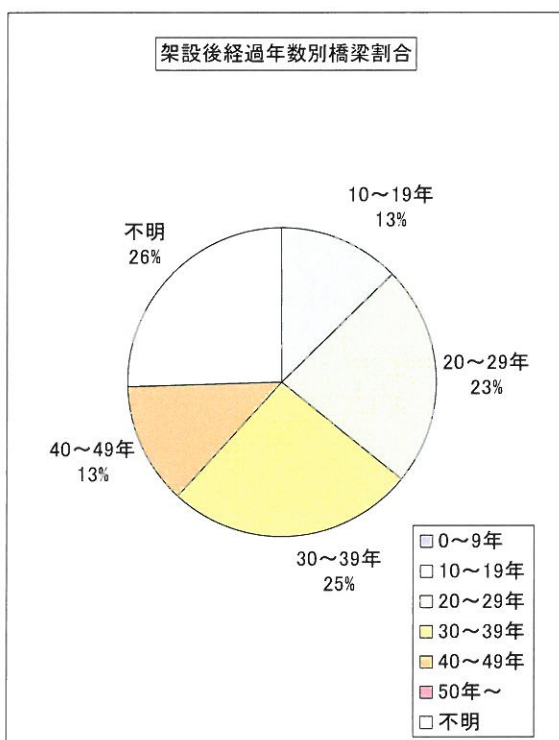
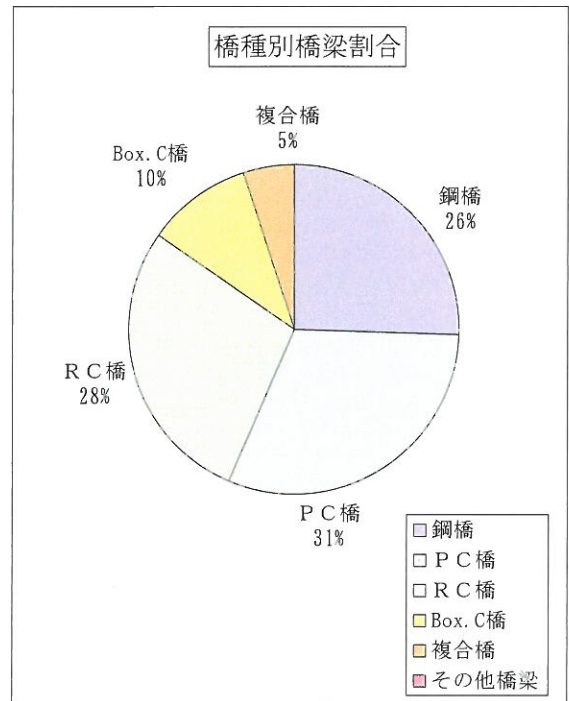
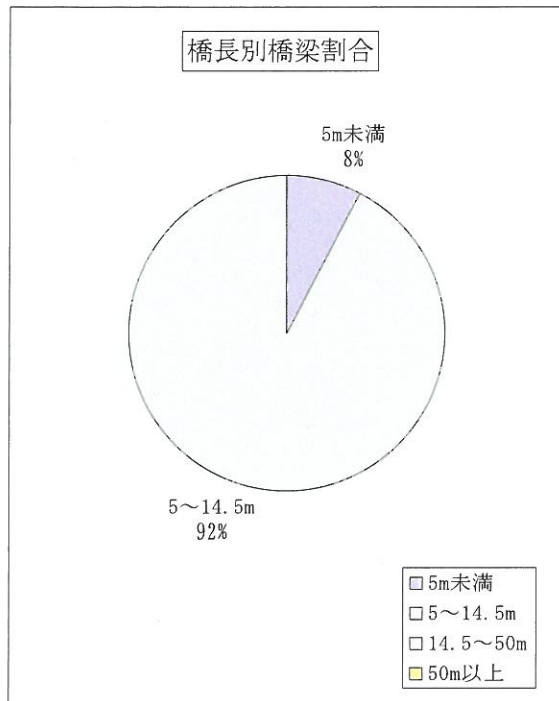


図-1 平成22年度橋梁点検の内訳

## 2. 損傷状況

平成22年度点検橋梁の損傷については以下の傾向が見られる。

- 橋梁主構造（上部工、下部工）の損傷が、8割程度見受けられる。  
（全39橋、損傷橋梁31橋、割合79%）
- 路面の凹凸、舗装の異常及び高欄・防護柵の損傷が8割程度で見受けられる。  
（全39橋、損傷橋梁28橋、割合72%）

### （1）鋼橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は9橋あり、鋼橋全体（10橋）のうち、90%にあたる。

表－1 鋼橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
鋼橋	桁	腐食	8
		亀裂	0
		ボルト脱落	0
		破断	0
	床版	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	1
		鉄筋露出	0
		変状	1
	支承	機能障害	0
	伸縮装置	損傷	6
	損傷数		19
	実橋梁数		9
点検数		10	
損傷率		90%	

※鋼製床版については、桁部材に含む。

### （2）PC橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は7橋あり、PC橋全体（12橋）のうち、58%にあたる。

表－2 PC橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
PC橋	桁	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		定着部異常	0
	床版	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		変状	0
	支承	機能障害	4
	伸縮装置	損傷	7
	損傷数		15
	実橋梁数		7
点検数		12	
損傷率		58%	

(3) RC橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は11橋あり、RC橋全体（11橋）のうち、100%にあたる。

表-3 RC橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
RC橋	桁	ひびわれ	1
		鉄筋露出	0
		定着部異常	0
	床版	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		変状	1
	支承	機能障害	7
	伸縮装置	損傷	10
	損傷数		24
	実橋梁数		11
	点検数		11
損傷率		100%	

(4) ボックスカルバート橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあったBox. C橋は2橋あり、Box. C橋全体（4橋）のうち、50%にあたる。

表-4 ボックスカルバート橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
Box. C橋	桁	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		定着部異常	0
	床版	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		変状	0
	支承	機能障害	0
	伸縮装置	損傷	0
	損傷数		2
	実橋梁数		2
	点検数		4
損傷率		50%	

(5) その他橋梁

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は2橋あり、その他橋梁全体（2橋）のうち、100%にあたる。

表－5 その他橋梁の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
その他	桁・床版	腐食	0
		亀裂	0
		ボルト脱落	0
		破断	0
		ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	1
		鉄筋露出	0
		変状	1
	支承	機能障害	2
	伸縮装置	損傷	2
	損傷数		6
実橋梁数		2	
点検数		2	
損傷率		100%	

(6) 橋面

路面の凹凸、舗装の異常、高欄損傷のあった橋梁は28橋あり、橋梁全体（39橋）のうち、72%にあたる。

表－6 橋面の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
全橋	路面	凹凸	12
		舗装の異常	5
	高欄	損傷	18
	損傷数		35
	実橋梁数		28
	点検数		39
	損傷率		72%